

大学生が行う英語ワークショップを通じた
中学生の英語学習への態度変容に関する研究
～長野県木曾郡木曾町立開田中学校での取り組みを事例に～

代表：井坪葉奈子（総 3） 指導教員：長谷部葉子 助成額：5 万円

大学生が地方（長野県木曾郡）の公立中学校の中学生有志を対象に、英語を切り口としたワークショップを行うことで、中学生の英語学習に対する態度（動機付けなど）がどのように変化するかを調査し、「異文化への理解」「自身の文化への理解と誇り」の二点が「英語学習への意欲の向上」に密接に関係しているという仮説を証明したい。ワークショップ内容としては二段階あり、まずは開田高原の英語版観光パンフレット作成を通して、自分の地元のいいところを再発見、再認識し、発信できるものと発信できる術を手に入れることを目指す。その後、スカイプなどのネットワーク技術を利用した海外の同世代との交流学习を行い、異文化をより身近に感じる経験をする中で、英語への態度変容を観察する。

新 報 日 本 濃 信 日 報 8月5日 金曜日 (平成28年)

開田高原英語パンフでPR

木曾町開田高原出身の大学3年生、井坪葉奈子さん(22)が4日、開田中学校の生徒と一緒に、英語で開田高原を紹介するパンフレット作りを始めた。中学生が英語に触れ、地元の魅力に気付く機会にする狙い。写真撮影やインタビューも予定し、6日間で内容をまとめる計画で、初日は掲載する観光スポットや食べ物の



パンフレットの内容について話す井坪さん(左)と中田さん

出身大学生 開田中生徒と制作開始

井坪さんは小学4年の時、親の仕事でスリランカに移住し、ウズベキスタンでも暮らした。海外生活を通じ、母国や育った地域への誇りや理解が、他の国々を理解することにつながると実感。17歳で帰国し、現在は慶応大で英語教育を学び、子どもが英語を学びたくなる動機付けについて研究している。

開田中に協力を依頼し、夏休み中の図書室を借り、生徒に参加を呼び掛けた。この日は2年の中田晴太さん(13)が参加。木曾地方や国内各地の観光パンフレットを見ながら、盛り込む内容を2人で相談した。井坪さんは英語と日本語で、「ここはどんな食べ物が有名?」「お勧めの観光スポットは?」表紙にはどんな写真がいいと思う?などと質問した。

中田さんは「そばやハクサイ、アイスクリームが有名。木曾馬の里やマイアスキー場が観光スポットで、表紙は御嶽山がいい」と答え、「英語はあまり得意でないのですが、どうすれば楽しく学べるかを知らなくて参加した」と話していた。